

連続
フォーラム

地域課題からみた学校教育の将来像

地域づくりと人づくりに関心のある方々が共に学びを深めるフォーラムです。持続可能な地域と社会のあるべき姿について学び、その実現に役立つことができる子どもたちの育成を考えるきっかけとして企画しました。

エコリテラシーを高める エディブル教育の可能性

—人と地球全体の健康を実現する
プラネタリーヘルスの社会実装に向けて—



講師

内科医・地域創生医・東京大学研究員

きり むら り さ

桐村 里紗 先生

日時 2024年 3月5日(火)

参加無料

14:00~17:00

定員 30名

※タイムスケジュールなどの詳細は裏面をご覧ください。

場所 ZOOMによるオンライン参加または録画配信



申込
方法

以下のフォームまたは電子メールから、希望する参加方法
(オンライン参加または録画配信)を明記してお申し込みください。
折り返しオンライン参加・録画配信の接続先をお知らせします。
<https://forms.gle/NA3WuUhANgGGR4HZ7>



【問合せ・申込み先】上越教育大学・教科内容先端研究センター
メール：kyoka-cen@juen.ac.jp
電話：025-521-3336

上越教育大学・教科内容先端研究センターでは、グローバル時代の知識基盤社会にふさわしい、次世代の学校教科の内容について、研究・開発を行っています。その一環として、毎年、地域課題の解決に貢献し、持続可能な地域づくりに寄与できる教科内容を考えるために、連続フォーラムを開催しています。

今回は、腸内環境および土壌における微生物の役割に着目して、食・農業・環境問題への洞察にもとづき人と地球全体の健康を実現するためのプラネタリーヘルスの社会実装をめざして鳥取県を拠点にした「鳥取江府モデル」構築に挑戦されている医師の桐村 里紗さんを講師としてお招きし、〈エコリテラシーを高めるエディブル教育の可能性〉というテーマで、不耕起・無農薬による多様な作物を育てる協生農法の可能性、人間の心身と食物と農業のあり方の相互関係などについてオンライン会議（ZOOM）方式でご講演をしていただき、その後、上越地域の具体的な地域課題に取り組んでいる学校教育関係者（学生・教員）、地域住民、公益事業者等によるトークセッションをおこないたいと思います。

桐村さんが指摘するように、今日、「農業や医学だけでなく、人が関わるあらゆる分野は全て、『リダクシオニズム（要素還元主義・細分主義）』をもとにした近代科学によって裏打ちされたことで、ことごとく分断されながら、同じ問題で行き詰まっています。持続不可能な世界のあらゆる問題の解決は、次元を一つ上げて分断を統合し、共通言語を持ち、共通のネットワークを土台にすることで可能になる」と思います。そこで地域での食と身体と健康の課題、農業や生物多様性や自然の教育に関心をお持ちの方々のご参加を広くお待ちしております。

タイムスケジュール

TIME SCHEDULE

13:30~	オンラインでの参加受付開始
14:00~14:10	開会あいさつ・趣旨説明 上越教育大学・教科内容先端研究センター長 下里 俊行 上越教育大学・教科内容先端研究センター研究員 山縣耕太郎
14:10~15:40	基調講演 桐村 里紗 先生 エコリテラシーを高めるエディブル教育の可能性
15:40~15:50	休憩
15:50~17:00	トークセッションと学校教育の課題

PROFILE

講師 桐村 里紗 先生

内科医・地域創生医。公益財団法人日本ヘルスケア協会プラネタリーヘルス・イニシアティブ代表。1980年岡山県生まれ。2004年、愛媛大学医学部卒。2018年、(株)tenrai代表取締役医師。フジテレビ系『ホンマでっか!?TV』に腸活評論家として出演。最新の分子整合栄養学、バイオリジカル医療・腸内フローラ研究などをもとにした予防医療、生活習慣病から週末期医療まで幅広く診療経験を積み、2018年、(株)tenraiを起業し代表取締役に就任。2022年、東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻道徳感情数理工学社会連携講座共同研究員。「プラネタリーヘルス」実現のため鳥取県米子市のガイナレ鳥取とともにソニーコンピューターサイエンス研究所の指導のもとで協生農法の実験圃場を開き、耕作放棄地などの地域課題の解決に取り組んでいる。主著に『日本人はなぜ臭いと言われるのか：体臭と口臭の科学』『腸と森の「土」を育てる：微生物が健康にする人と環境』（いずれも光文社新書）。

問合せ先

上越教育大学・教科内容先端研究センター メール：kyoka-cen@juen.ac.jp